

「こころの貧しいものを与える人へ」

～ 見出したものを保っているべきこと ～ II テモテ 1:6 ~ 7

■ 心の貧しいものへ

アメリカに住む 16 歳の少女はひどい腎盂炎を患いました。もう腎臓を移植することしか治療法はない状態になってしまいました。彼女の父親は、自分の腎臓が適合するか移植可能と判断された自分の腎臓を提供し、彼女は移植されたことで病気から解放されました。ところが移植して一年、ふたたび彼女の腎臓は病気を再発してしまいます。それなら自分の腎臓を、と父親は再度提供を望みますが、それはアメリカの倫理委員会では賛同を得られません。力と愛と慎みとの霊それでも提供することを望む彼は、なんとか倫理委員会に訴えを届けたいと手を尽くします。そして、あらゆる手段を講じてその場に立つことができた彼は、倫理委員会のように発言しました。

「私はイエス・キリストを信じています。彼がしてくれたように、倫理や道徳より大切なものは『愛』なのです。『愛』は倫理や道徳を規制することができません。倫理と道徳は正しいことで素晴らしいものです。2 つある臓器の 1 つを切り取り、さらに残りのもう 1 つを切り取ることは危険が伴うことであり、もちろん正しくないことを知っています。しかし、『愛』は『死』よりも強いのです。私は死んでも、私の残りの腎臓を提供し娘に移植し、私はそこに生きたいのです。切に願う私の心を受け入れてください。なぜならば彼（イエス・キリスト）もそうしたからです。」

倫理委員会の人たちはこの発言を聞き、一同祈るように深く真剣に考えました。そして出た結論は、前例のない驚くべきものでした。「臓器を提供することを認めるが、国の最高の透析技術を使ってあなたも生かします。」

この特例により、娘は父の移植によって再び健康を取り戻し、すっかり人生を取り戻し、結婚し、父親とも幸せな余生を過ごしました。

イエス・キリストは、私たちのためにこの父親以上の犠牲を払ってくださいました。私たちにとっては到底出来ないことであっても、『愛』の力には人間のルールを超えた神様の解決があるのです。自分ないものを求めようとする心、それこそが心の貧しいものの姿です。

■ 力と愛と慎みとの霊

『それですから、私はあなたに注意したいのです。私の按手をもってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。』(2 テモテ 1:6-7)

テモテに宛てたこの手紙の中でパウロは「神様から与えられている賜物を、再び燃え立たせてください。」と語りかけています。テモテはパウロの信頼する愛弟子でしたし、賜物を軽んじたりすることはなかったと思います。しかしそれでも、神様からの賜物はすでに与えられていること、それを思い出し、燃え立たせるように語っています。私たちに必要なものはすでに神様によって用意されているのです。それは私たちの内側にあり、あきらめずに求めるものには必ず見つけることが出来ます。わたし達が困っている隣人の力になろうとすると、神から与えられた物を他の人のために用いようとするとき、思いもしなかった奇跡を見つけることが出来るのです。ですが、恐れや高ぶる心を捨てなければ、自分が自分の管理者であるうちは神様が働かれないので解決の道は開かれませんか。どうして良いかわからない、そんな時も諦めることなく神に求めあなただけに与えられた「力と愛と慎みの霊」を見だしていきたいのです。

■ 神様のくびき

くびきとは、牛が隣に子牛を連れて一緒に歩くことを言います。子牛は自分の力で歩いてるつもりですが、本当は親牛が引っ張っています。そうやって歩くうち、いつのまにか子牛は自分でくびきを引っ張っていけるようになるのです。

私たちが実はそのように、神様のくびきによって歩んでいます。自分でやっているのではなく、神様がいつも隣にいて一緒に歩んでいるのです。しかし、この子牛も自分の意志で止まることが出来ます。止まってしまうと、親牛がいくら引っ張っても動くはずがありません。私たちは、この子牛のように、やるかやらないかを自分で決断しなければいけません。

『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりく

だっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからです。』(マタイ 11:28 ~ 30)

■ セレンディピティは人に手渡すときに与えられる

『するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福を求め、パンを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられた。また、二匹の魚もみなに分けられた。』(マルコ 6:41)

五つのパンと二匹の魚、それを持っていることを伝えた素直な子がいました。アンデレはそのわずかな食べ物信じてイエス様のもとに差し出しました。そして、イエス様がそのパンを祝福してさくと、5 千人以上の人が食べることができ、12 のかごいっぱい余るほどでした。人数を思うと足りないかもしれないけれども、自分に与えられているものを信じて、神様の前に差し出すなら、そこに神様が働かれるのです。

神様は聖書の中で、与えるとはどのようなことを教えています。心の貧しいものは幸いです。信じて待つのです。ただ自分ものを現実に目が向いているうちは、神様の計画はかまいません。夢がかなわないのは途中であきらめてしまうからです。守ってくれる神様信じて待っていますか？

『私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをあらかじめ備えてくださったのです。』(エペソ 2:10)

損得勘定で判断していないでしょうか？セレンディピティは、私たちが人に手渡すときに与えられます。目の前の問題に対して、恐れずにイエス・キリストを信じて、自分に与えられたものを分け与えようと一歩踏み出した時に、奇跡が起こるのです。

■ 目の前の問題に解決の一步を

リチャード・ウォンブラントというアメリカ人牧師は、スターリン統治下のルーマニアで牧会をしていました。当時のルーマニアは、礼拝しただけで逮捕されるような状況にありました。収監された人には壮絶な拷問が待ち受けていました。彼は、ナイフで皮を剥かれるという壮絶な拷問を、14 年間受け続けました。看守はそんな拷問を受け続ける彼らに、仲間が一番弱ったものに渡せ、と砂糖を与えましたが、一周しても誰もその砂糖を受け取りませんでした。

そんな彼らの諦めない信仰の姿を目の前にし、看守もいよいよ彼らをこんな風にも扱っていいものかと感じ始めていました。そうしているうち徐々に事実が世の中に漏れ伝わり始め、ついには解放されアメリカに帰国した彼に、アメリカ議会は現地ではどんなことが起こっていたか説明を求めました。彼は、その壮絶な事実をその残酷に傷ついた身体を見せることで、人々に彼に起きた信じがたい事実を知りました。アメリカはそのことを知ることによって現地に使節団を送り、捕らわれたすべての人を解放するに至りました。彼の信仰によるあきらめない心は、結果すべての解決へと導いたのです。

通っているすべての道は神様の計画で益とされます。痛みも悲しみも裏切りも、信じてあきらめないならば、それは大きな奇跡のための土台となり、信じて行ったあなたも、その姿を見た周りの人にも救いと癒しの奇跡をもたらすのです。それはイエス様があなたのために十字架で完成された父の愛なのです。

■ お祈りしましょう

もし信じて疑わず、偽りを言わず、心の貧しさと戦って真実を知るならば、神様はあきらめずに歩むあなたを喜び祝福します。その人が通っている人生には必ず神様の計画があり、益があります。その信仰は自分の祝福だけではなく、周りにいる多くの人たちに救いと癒しをもたらす奇跡が起こります。だから、恐れず信じて一歩踏み出しましょう。夢が叶わないのは、途中で諦めてしまうからです。心のうちの偽りをすべて明け渡して、主の備えを信じて祈りつつ歩みましょう。

(要約者: 牧 三貴子)

(2022年 6月 26日)